

リサイクル追跡シリーズ第二弾！

『無色。茶色ビン』の旅

本紙8月号に掲載したリサイクル追跡シリーズ「雑色ビン」の旅に続き、今回は「無色・茶色ビン」がどのような流れでリサイクルされているのかを取材してきました。

市では、飲食料用のビン（「ビン類」として、無色・茶色・雑色の3種類に分類して回収されています。雑色のビンは、細かく砕いて土やタイル、アスファルトに混ぜて再利用しています。しかし、無色と茶色のビンは、それぞれ同じ無色と茶色のビンにリサイクルすることが出来ます。



①運搬されるカレット／②成形されるビン

①家庭から出た飲食料品用のビンは、ごみステーションに設置されたコンテナを使用し、色別に回収されます。

②回収されたビンは、牛窓・邑久地域はクリーンセンターかもめへ、長船地域は長船クリーンセンターへ集められます。集められたビンは、リサイクル業者に引き取られ、工場へ運搬されます。③工場では、機械でビンを粉砕し、ラベルなどの余分な物を取り除きます。5ミリの下の粒状になるまで粉砕します。出来上がった粒をカレットといいます。④カレットは、ガラスビン製造工場へ運ばれます。カレット約90%とその他の原料（けい砂・ソーダ灰など）を混ぜ、高温で溶かし、ビンの形に成型します（写真①・②）。



③人の目で検査し選別／④出来上がったビン

⑤出来上がったビンは、様々な検査を受けます。合格したもののだけがビン詰め工場などへ運ばれ、お店に並びます。（写真③・④）。カレットを作る過程で、耐熱ガラスや陶磁器などが混ざると、新しく作られるビンの品質や強度に大きく影響してしまいます。回収したビンを効率的に再利用するため、家庭から出す際には次のことに気をつけてください。

【ビンを出すときのポイント】
・飲食料用のビン以外のものを混ぜない。

■問い合わせ先
生活環境課

ごみ減量速報

単位：グラム

地域	23年6～8月	22年6～8月	達成度
牛窓	825	791	×
邑久	832	804	×
長船	700	674	×

※数値は、1人1日あたりのごみ排出量の3カ月平均値です。
※達成度は、減量率5%以上を◎、0～5%を○、減量できなかった場合を×で表しています。

安全通信



問 瀬戸内警察署：0869-34-6110
消防本部警防課：0869-22-1492
予防課：0869-22-1493

消防本部からのお知らせ

普通救命講習を受講しよう

心臓や呼吸が止まった人の治療は1分1秒を争います。しかし、119番通報をしてから救急車が到着するまでには、全国平均で6分以上の時間がかりかかります。もし救急車が到着するまでの間、何も応急手当を施さず待っていたら、傷病者を救命するチャンスはどんどん遠ざかってしまいます。

そのため、傷病者の付近に居合わせた人が心肺蘇生法や、AED（自動体外式除細動器）を用いた電気ショックなどの速やかな応急手当を施すことができるかどうかで、救命率に差が出るのがわかっています。



AEDとは、心臓まひを起こして倒れた人に電気ショックを与えて救命するための器械です。倒れた人の胸に電極を貼ると、内蔵しているコンピュータが自動的に心電図を解析し、電気ショックを指示する仕組みになっています。電気ショックが行われるまでの時間が1分遅れるごとに救命率はどんどん低下していきます。

現在、AEDは学校や駅などの公共の施設でも設置が進んでいます。

普通救命講習とは、家庭や職場など、あなたの身のまわりで突然の病人やけが人が発生した際に、応急手当が素早く出来るようにするための実技講習会です。大切な人の命を救うため、あなたも普通救命講習を受講してみませんか。

講習で学ぶ主な内容は次のとおりです。

- ・応急手当の必要性について
- 【実技】
- ・基本的な心肺蘇生法（胸骨圧迫と人工呼吸）
- ・AEDの使用法
- ・異物除去法
- ・大出血時の止血法

普通救命講習は、傷病者の社会復帰率向上に役立つ3時間の講習です。市では、市民の皆さんをはじめとする各種団体や市内の事業所などから依頼があれば、消防本部において講習を



AEDを使用した実技講習

開催しています。また、地域の集会所などに指導者を派遣して講習を行うこともできます。

以前に受講したことがある人も、技術の維持のために、受講後3年以内に再講習を受講するようにしましょう。

■問い合わせ・申込先
消防本部警防課

増えています

高齢者の交通事故

近年、全国的にみると、交通事故による死者数は減少しています。しかし、社会の高齢化によって、高齢者の交通事故が増えています。

8月31日現在、県内の交通事故死者は、70人で、そのうち高齢者が33人と、全体の47・1%を占めています。外出する際には、次のことに注意して交通事故に遭わないようにしましょう。

歩行中の注意点

- ・早朝、夕方、夜間の外出を控える。
- ・夜間に外出するときには、夜光反射材を体の前後、左右、靴のかかとなど、車両から見える場所に付ける。
- ・必ず信号のある交差点や横断歩道を渡る。
- ・視野の確保のため、目線を下げず、周囲の状況をよく確認する。

車両運転中の注意点

- ・歩行者や自転車を見落とさないように注意する。
- ・交差点では安全確認を徹底し、徐行運転を行う。
- ・体調が悪いときや夜間、雨天時は運転を控える。

■問い合わせ先
瀬戸内警察署